

令和5年度第6回生駒市介護保険運営協議会
会議録

開催日時	令和5年11月21日（火） 午後2時00分～午後3時20分
開催場所	生駒市メディカルセンター 3階研修室
出席者 (委員)	川井委員、高取委員、藤田委員、藤尾委員、奥本委員、萩原委員、林委員、井上委員、日野委員、上村委員
欠席者	4名欠席／14名
事務局	田中特命監 福祉健康部：吉村部長、田中次長 介護保険課：吉本課長、殿水補佐、木下主幹、坂本 地域包括ケア推進課：後藤課長、秋永主幹 福祉政策課：上野課長、上野主幹 地域医療課：水澤課長、天野補佐
案件	(1) 会議の公開・非公開について (2) 高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の素案について (3) パブリックコメントの実施について (4) その他
資料	・ 令和5年度第6回生駒市介護保険運営協議会 会議次第 ・ 資料1 「生駒市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画 素案」 ・ 資料2 「パブリックコメントの実施について」 ・ 当日追加資料（介護人材） ・ 当日参考資料（アンケート追加）

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>1. 開会</p> <p>2. 案件</p> <p>(1) 会議の公開・非公開について 本日の会議の公開について確認。 <u>異議なし</u> 傍聴 6名について報告。 <u>傍聴者入室</u></p>
会長	<p>(2) 高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の素案について ページ数が多いので、ページ103の「第5章 持続可能な介護保険制度の推進」まで、まずご説明いただきまして、いったん質疑応答の場を設けたいと思います。</p>
事務局	<p><u>(資料1)「生駒市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画 素案」第1章～第5章について説明</u></p> <p><u>(当日追加資料) 介護人材の推計、算出について説明</u></p>
事務局	<p>皆さんにお配りしている情報というのは、今まで市独自で人材推計は行っていないけれど、一度、市で算出してみようというところから始まっています。他市の状況を聞きましても、人材推計は県のすることで、市のすることではないと、ほとんどの市からそういった回答をいただきました。その中で生駒市としては、いわゆる他市を引っ張っていくというこれまでの姿勢もありましたので、人材推計についてもトップを切ってやってみようということで人材推計の算出をおこなってもらいました。</p> <p>ただ、なかなか成果品とまでは絶対に言い切れない情報でございます。使っているデータが国勢調査のデータで、その信憑性やワークシートのシステム構成が、国・県用につくっており、データを入れたら数字が出るという形になっています。そこに無理矢理、市の数字を当てはめていますので、これまでお話をさせていただいた今後の施策とはなかなか一致していません。そのため、ご注意いただきたいのは、今回のお配り資料は、あくまでも今算出した数値ということにとどめておいていただければと思います。この人材推計というのは、大変難しい課題であって、そのデータの重要性というのも、ただ単に市独自で考えてはできないもので、このワークシートが指標となりますので、これをいかに使っていくかという課題が分かりました。人材推計</p>

<p>会長</p>	<p>についてはまだまだ難しい課題が残っているという今回の経験を、次期以降こういうことがありましたら、きっちりと計算できるように国や県にも要望していきたいと考えております。</p> <p>ご尽力いただいて、需給推計のほうも出していただきましたけれど、今ご説明がありましたように、今回の計画には掲載はしないということで、皆さんにはご了解をいただきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>本文についても少し話をしたいことがあるのですが、当日追加資料について、これは緊急的につくったものですよという大前提で話をされました。なおかつ、その根拠となる数字についても、コンサルの方から説明がありました。現場の状況としましては、この棒グラフを見る限りでは、2023年では実人数で432名余っていて、常勤換算でも327名の職員が余っているというグラフですね。で、現場でこんな職員、どこにいるのかという話です。国勢調査から、医療・福祉に従事する雇用者で、その従事する者から高齢者福祉関係者の割合を出していただいているのですが、高齢者福祉の関係者というのは介護保険に従事する職員だけじゃないですよ。</p> <p>もう一つは、高齢者福祉という大きなジャンルでいいますと、そこには事務局員や厨房職員、ケアマネ、相談員がいたりということになるわけです。ちなみに、私どもの法人の内、介護職員が占める割合は50パーセントです。残りはケアマネや事務職、調理員であったりです。ですから、ここでこの国勢調査の医療・福祉に従事する雇用者という括りで計算をすると、私どもの法人の例をあげるとその内の半分が介護職員だと、実数はそういう形になっています。</p> <p>ただ、私どもの例が全国の平均だとは、私は決して思っておりません。従業員が10名の内8名までが介護職員という、かなりそういう事業所のほうが多いわけで、その平均がどれくらいかはコメントはできないですが、介護職員というように限定すれば、かなり数は少なくなるという話を申し上げています。ただ、この2023年で423人余っているというのは、現場としては、そんな人どこにいるのかと私は認識しております。</p>
<p>会長</p>	<p>実態としては足りていないのに、グラフでは足りているという点が違和感を感じておられると思います。ですから、先ほどもご説明されたように、これについての計画への掲載は今回しないということで取り扱わせていただいて、今後、委員の今日のご意見などもきちんと踏まえて、需給見通しをつくっていく場合にはどうやっていくのかという検討が必要だと思えます。</p>

委員	<p>今、おっしゃっていただいたので、私も思っていたことですが、最初に国のワークシートの考え方、割合の算出で、ここで何か引っ掛かっていたのですが、今も実感として人材は既に足りていない感じです。せめて、もし出していただくのであれば、2023年をゼロとした場合からの需要推計や仮に常勤換算のグラフで今年度2023年を327人足りているのではなく、ゼロにした場合に2025年、2030年にはいくら介護職員が足りないのかという話のほうに分かると思います。</p> <p>ベースを国のデータからいくと、国全体ではもっと足りていると言っておられるのだろうかと思いました。</p>
会長	<p>ただいまの質問につきまして、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>先程も説明した通り、2015年から2019年の数字を入力するようになっていて、2023年を基準に置いた時に5年間を入力しないと出てこないのか、それとも2年分、3年分あれば出てくるのか、やってみないと分からない部分もありますので、チャレンジしてみて2023年に基準を置いてデータが出るようであれば、ご紹介したいと思います。</p>
委員	<p>この基本計画はパブリックコメントで一般の市民の方もご覧になると思いますが、私の認識不足かも知れませんが、文章の中にICTやACP、BCPという略語が多々出てくる。これが何のことか分かりづらい。そういうことも補足説明をしていただけたら、読む人にはやさしいと思いますので、またその辺、ご検討いただきたいと思います。71ページにICT、ACPが出てきます。それと、75ページにBCPが出てきます。BCGやジフテリア注射かなと思う方もいますので。</p>
事務局	<p>BCPですと、62ページの初めて出たところの下に記載しております。</p>
委員	<p>そこに戻って見るというのはなかなかしにくいので、どこかにまた説明を付けていただけたら有難いと思います。</p>
会長	<p>62ページの下にBCPの説明が入っていますが、おっしゃっていることはよく分かりますので、ご検討いただくようにします。</p>
委員	<p>97ページ「第5章 持続可能な介護保険制度の推進」のところで、98ページからの施策・事業で一番の「介護サービスの基盤整備と家族介護支援の充実」から5番まであるのですが、一番最後の103ページに目標値の順番が入れ</p>

	替わっていると思う。
事務局	ご指摘、ありがとうございます。修正させていただきます。
委員	93ページの下です。「介護者（家族）への支援」となっているけど、前は「介護者家族の会への支援」になっていたということです。
事務局	「介護者家族の会への支援」ということで、認知症の方についてもいろいろ支援をいただいています。こちらは一般的な介護者、家族への支援ということで、介護者家族の会については99ページのほうに整理させていただいております。
委員	これが正しいということですね。分かりました。
委員	ここに文言としては出てきていないですが、今、介護離職者が増えてきております。一時、介護離職者の数は減ってきていましたが、今、団塊世代を介護する団塊ジュニアの現役中の方が増えてきています。そして、その方たちは現役中なので仕事をお持ちです。その方たちが介護のために離職する率が上がってきているということですが、その人に対する支援、国は介護休業などの支援制度を40歳になった従業員に周知することを義務付けると言われていますが、その辺はどのようにお考えでしょうか。ヤングケアラーなど家族介護をしている人たちの支援という言葉はありますが、その辺をお聞きしたいと思います。
会長	今、働かれている方々に対する支援について国も言われていますが、それがどう反映されていくのかということだと思います。働いている方々も家族ですから、99ページの「家族介護者支援の充実」のところになるかと思いますが、いかがでしょうか。
委員	そこに含まれているとは思いますが、それでパスしてしまうのかという感じ。現に団塊の世代を介護しているジュニアの方をたくさん知っていますので、それに対する対応も市としてどう考えておられるか知りたいと思います。
事務局	介護離職に対する取り組みというのは8期から出てきておまして、離職を防ぐためにどれだけのサービスを利用しないといけないかというところで計算をして、その単位数分を埋めるということで、認知症グループホーム、

<p>会長</p>	<p>施設の計画という形でやってまいりました。今期につきましても、国も離職を防ぐ計算式は出していないので、市もそこまではおこなっていませんが、離職を防ぐためにはやはり受け皿を整備しないといけないということで、整備計画としては考えております。</p> <p>実際に働いておられる方々への支援として、計画に何か記載できることはありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>実際に働いておられる方々への支援ということで、市として何ができるのか、これからも検討させていただきたいと思っておりますので、この計画書の中に盛り込めるものがあれば、確定までにまだ時間がございますので検討させていただきます。</p>
<p>委員</p>	<p>国は、支援制度の周知、相談窓口の周知をあげておられますので、市としてもこれから考えていっていただけたら有難いと思っております。介護離職される現役の方は、本当に人生がかかっていますので、ぜひぜひ市としても対応をよろしく願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>質問ではありませんが、第5章の2の「人材の確保・育成・定着、資質の向上」のところで、社会福祉協議会も毎年、実習生を受け入れています。その先生から、やはり介護施設を希望する実習生がいないということで、本人の希望と実習先のマッチングが非常に難しいというお話も聞いております。また、99ページの後段から中長期的な人材確保ということで、これも非常に大事なことだと思っておられて、来年度から本格的に授業として、夏休みの子ども福祉体験スクールというのを考えています。今年プレ的にやってみたのです。三つのコースの中の一つが高齢者について考えようということで、デイサービスセンターを利用して、3日間で1日5名、15名の募集で、10時から14時くらいまでお年寄りのお話し相手、お茶出しのようなことから、一緒にお昼ご飯を食べてお話し相手をするという体験スクールを募集してみました。結果としては、15名の募集でしたが、小学生6名と高校生1名の7名の方に参加していただきました。来年度からは本格的に実施していこうと思っています。その辺りは、市のほうにいろいろ教えていただいたり、ご協力もいただいて、進めて行きたいと思っておりますので、また一つ、よろしく願いしたいと思っております。</p>
<p>会長</p>	<p>私は介護福祉士養成もおこなっていますが、介護福祉士養成は20人定員で、申し込みは20人を少し切れたりします。先ほどの社会福祉協議会のお話は、お</p>

	<p>そらく社会福祉士の実習が多いと思います。介護福祉士の資格取得を目指している人たちは、だいたい高齢者施設、障害者施設に就職していますので、この方たちをもっと増やしていくように努力していきたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>では、ほかにご質問はありませんか。</p>
委員	<p>79ページの下ですが、「百歳体操や高齢者サロンの立ち上げに関して」というところから、「健康づくりリーダー等の養成」となっています。この百歳体操や高齢者サロンの立ち上げなどは、ほとんど団体が自主負担になっているところが多いですが、特にリーダーが高齢化しておりますので、この辺がかなりキツイ状況になっております。ここに市民ボランティアとの協働で取り組むと書いてありますが、具体的に何か取り組む事業というのは考えておられますか。</p>
事務局	<p>市民ボランティアとの協働ということで、生駒市には幸いなことに高齢者の方を含め、若い方、主婦層の方など、いろいろなボランティアの方が多いという市の一つでございます。単独でそれぞれ今ボランティアとして活動をしておられますが、高齢の部門に若い世代の方が自ら足を踏み込むというのはなかなか少ないという現状もあるので、そういうボランティアの集まりでマッチングや協働、地域共生というつながりが持てる場をつくっていただけると考えております。実際にいつ、どこで、どうするということまでは具体的には言えませんが、皆つながり合って人口減少の中、支えていけるような仕組みをつくっていただけるということで書かせていただきました。</p>
委員	<p>事業メニューということになれば、予算化もしていただいた上での事業だと私は思っておりますので、やはり団体等の負担は大きく、きゅうきゅうの中、みんな持ち出して地域の高齢者を支えておりますので、その辺はできれば行政のほうで事業があれば、それに乗った活動ができたという希望でございます。お願いいたします。</p>
事務局	<p>一つの事業として、昔からボランティアの養成というのは地域包括ケア推進課でもさせていただいていましたが、老人クラブにも「いこいこサポーター養成講座」という形でしていただいたこともございます。今、全体的に介護予防ボランティアの養成講座は、年間20人、30人の方、比較的若い年齢の方も介護予防に関心のある方の養成講座をさせていただいています。そういう方については、情報提供もさせていただきたいので、ご住所や連絡先などを把握させていただきリスト化させていただいています。高齢化によりしん</p>

	<p>どいグループ、サロンも含めいろいろなグループで人員不足があれば、そういう情報提供でつなぐということも考えていきたい。リストは市で把握させていただいていますので、またご相談いただけたらつなげられますので、よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p><u>(資料1)「生駒市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画 素案」第6章～最終について説明</u></p>
事務局	<p><u>(当日参考資料) アンケートについて追加報告</u></p>
会長	<p>では、この案件(2)につきまして、ご意見、ご質問をいただきましたが、反映できるものは反映させていただいて、事務局内で修正をお願いするということで、この案件をお認めいただけますでしょうか。</p>
	<p><u>異議なし</u></p>
事務局	<p>ご審議、ありがとうございます。</p> <p>先ほど精査をいただきました反映していく部分、順序の入れ替え、誤字脱字等を含め修正させていただき、パブリックコメント実施前には委員の皆様へ修正したものを送付させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>(3)パブリックコメントの実施について <u>(資料2)「パブリックコメントの実施について」説明</u></p>
事務局	<p>(4)その他 <u>「案件(4)その他」について説明</u></p>
会長	<p>では、これで「第6回生駒市介護保険運営協議会」を終了させていただきます。</p> <p>(終了)</p>